

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時： 令和4年5月12日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 山形大学小白川キャンパス「新グラウンドオープニングセレモニー＆イベント」開催
2. 学校給食の魅力を山形から世界へ発信～海外向け給食紹介動画の無料配信～
3. 地域の記憶「共創」アーカイブをはじめます
～第一弾は「三浦新七関連絵葉書アーカイブ」～

（参 考）

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和4年6月2日（木） 11：00～11：45

場 所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

学長定例記者会見（５月１２日）発表

1. 山形大学小白川キャンパス「新グラウンドオープニングセレモニー＆イベント」開催

小白川キャンパス長

おおにし あきまさ
大西 彰正

2. 学校給食の魅力を山形から世界へ発信～海外向け給食紹介動画の無料配信～

学術研究院 教授（地域教育文化学部担当）

おおもり かつら
大森 桂

3. 地域の記憶「共創」アーカイブをはじめます ～第一弾は「三浦新七関連絵葉書アーカイブ」～

学術研究院 准教授（学士課程基盤教育機構担当）

さとう こと
佐藤 琴

学術研究院 准教授（人文社会科学部担当）

おばた けいすけ
小幡 圭祐

令和4年(2022年)5月12日

小白川キャンパス「新グラウンドオープニングセレモニー&イベント」開催

【本件のポイント】

- 小白川キャンパスでは、キャンパス全体がイノベーションコモンズ（共創拠点）となることを目指し、その第一歩としてグラウンドをリニューアルした。
- 新たなグラウンドは、授業や課外活動などで利用するだけでなく、各種スポーツ団体等を通して地域の皆様にも活用いただきたいと考えている。
- グラウンドの完成に伴い、オープニングセレモニーとイベントを企画している。これを機に、地域との関係性を深め、小白川キャンパスのコモンズ化を図っていききたい。



【概要】

山形大学は、将来ビジョンに掲げる「つなぐちから。山形大学」をキーワードに、大学の知とインフラを活かした地域活性化の促進を目指し、山形大学小白川キャンパスをイノベーションコモンズ（共創拠点）化するためグラウンドをリニューアルいたしました。

このことをきっかけに、小白川キャンパスでは、多様な人々が集い、安心安全な環境でのびやかに活動する「コモンズ」として、キャンパスのサービス機能を拡張し、様々なパートナーと共に地域の活性化に貢献します。

このたびの新グラウンドの完成を記念し、オープニングセレモニーを開催します。セレモニー終了後には、オープニングイベントを開催し、グラウンドでのスポーツ体験やキャンパスツアーを行います。参加費は無料です。

ふかふかの人工芝の全天候型グラウンドで軽く体を動かし、大学の施設を楽しんでみませんか。
地域の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【実施内容】

日 時 / 令和4年5月29日(日) 10:00～(終了予定時刻 13:00)

会 場 / 山形大学小白川キャンパスグラウンド

対 象 / 地域の皆様

◆オープニングセレモニー(10時～)

1. 開式の辞
2. 学長挨拶
3. 施設概要説明
4. 来賓ご紹介
5. 来賓祝辞
6. 文科省挨拶
7. テープカット【小白川キャンパス・コモンズ宣言】
8. 祝電・祝演披露
9. 記念写真撮影
10. 閉式の辞

イベント詳細



◆オープニングイベント

(セレモニー終了後 おおよそ11時頃～)

○健康と学びの企画(自由参加・見学会)

・みんなで体を動かしてみよう！

・ブラインドサッカーを体験しよう！

○キャンパスツアー

文化ホール(音楽コンサート)、図書館、博物館等

お問い合わせ

健康と学びのサポートセンター

TEL 023-628-4917

メール yu-cwb@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

小白川キャンパス Innovation Commons Opening Ceremony & Event

参加
無料

事前申込不要
途中参加可能

大学で健康と学び

2022
5/29 sun

start 10:00
(13:00 終了予定)

場所

小白川キャンパス
グラウンド

10
時～

オープニングセレモニー

11
時～

オープニングイベント
・みんなで体を動かしてみよう
・ブラインドサッカー体験
・キャンパスツアー

お問合せ
山形大学
健康と学びのサポートセンター
☎ 023-628-4917
✉ yu-cwb@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



山形大学で遊ぼう。

新グラウンドがオープンします。それに伴いオープニングセレモニーを開催いたします。オープニングセレモニー終了後には、オープニングイベントが開催され、グラウンドでのスポーツ体験やキャンパス内でのスタンプラリーが行われます。オープニングセレモニーでは、学生サークル四面楚歌による花笠踊りの披露もございますので皆様是非ご来場ください。

※当日、37.5℃以上の発熱がある方、咳、のどの痛みなどの風邪の症状や、だるさ、息苦しさ、味覚・嗅覚障害などの症状がある方はご来場をお控えください。
※会場内では、マスクの着用、入場時の検温、手指消毒にご協力いただき、他のお客様との距離を十分に保つようご協力をお願いいたします。

■事例の概要

大学の知とインフラを活かした地域活性化の促進を目指し、小白川キャンパスのスポーツインフラを最大限に活用することで、大学の教育・研究・医療等の発展とともに、地域と持続的に連携し、文化・健康・生涯学習等を促進・発展するための環境整備を行った。

■ビジョン等への位置づけ 山形大学将来ビジョンでは、「つなぐちから。山形大学」をキーワードに共育、共創、共生による持続可能な幸福社会の実現を目指しており、キャンパスを多様な人々が集い、安心安全な環境でのびやかに活動する「コモンズ」として、キャンパスのサービス機能を拡張し、様々なパートナーと共に地域の活性化に貢献することとしている。

■運営方法・体制整備等

- キャンパスをあらゆる「共創」の拠点として地域社会に貢献できる場所とするため、令和3年6月に『健康と学びのサポートセンター』を設置、キャンパス内の様々な施設を用い、大学教員の研究を地域の人々のウェルビーイング（well-being、幸福・健康）に結び付ける取り組みを行うこととしている
- 体の健康、心の健康、知の健康の部門毎に大学ならではの付加価値をつけたコンテンツを提供、屋外施設は体の健康分野で主に活用、連携することとしている
- 地域の生涯学習、スポーツ分野において相互協力を行うため、山形県サッカー協会と施設利用協定を結んだ



■共創活動・今後の展望

- 小中学校とのスポーツ教室や各種スポーツ指導者養成の拠点としての利用を求められており、グラウンドが地域の人々と連携し交流できる「共創」の場として、地域のスポーツ文化の活性化と人材育成など地域連携に貢献する
- 今後、サポートセンターから提供する屋外施設を活用するコンテンツについては、エクステンションサービス推進本部の市民等へのニーズ調査によってオーダーメイドのプログラム作成も視野に入れている（リカレント教育での展開）

■共同創空間

- 老朽化したグラウンドを全天候型に整備、安全安心な施設とするとともに積雪期間の利用も可能とし、外部利用の拡大を図った
- R4年度の整備ではスポーツ科学の共同研究や地域における屋外施設利用者が利用可能な拠点施設（建物）の整備を行う
- 山形県サッカー協会や山形陸上競技協会などスポーツ関連団体からニーズを調査するなど、学外利用に向けた要望の把握を行った
- グラウンド整備では、施設整備費補助金以外の財源を活用することで実施、自己財源や公益財団法人日本サッカー協会からの助成金を活用した
- 施設の維持管理は、施設利用料等を充てることとしている
- 大学の屋外体育施設の外部貸し出しを積極的に進めていくことで、大学の資産を準公共財として有効活用を図る



令和4年（2022年）5月12日

学校給食の魅力を山形から世界へ発信 ～海外向け給食紹介動画の無料配信～

【本件のポイント】

- 歴史ある日本の学校給食の魅力について、海外の方々にも分かるように英語で解説した短編動画を制作し、無料配信を始めました。
- 学校給食発祥の地と言われる山形において、英語版の給食紹介動画を制作したのは初の試み。動画を見た海外の方から既に問い合わせがあり、基礎編の第一弾に続き、第二弾（地産地消編）、第三弾（持続可能編）の制作も進めています。
- 公的な学校給食のないカナダを始め、海外の研究者や行政関係者、外国の方々に日本そして山形の学校給食の魅力や意義をPRするだけでなく、国内・県内の幅広い世代の方々にもその価値を再認識してもらう食育教材としての有効性が期待されます。



【概要】

公的な学校給食制度のないカナダの行政関係者や研究者等に対し、学校給食の意義を伝え、自国での実現可能性について具体的に検討するための参考となる好事例として、日本の学校給食の実態を短時間で分かりやすく解説する動画を制作。日本の学校給食を扱った映像はこれまでも多数あるが、学校給食発祥の地と言われる山形の資源を有効活用し、学校給食の具体的な運営も含めて英語で解説した動画の制作は、初の試み。R4 年 2 月より YouTube(<https://youtu.be/xlHU5GrVD64>)で配信し、誰でも自由に視聴できる。この動画制作をきっかけに、第二弾（地産地消編）、第三弾（持続可能編）の制作へと発展し、現在撮影中。

【背景】

日本のような公的な学校給食制度のないカナダの大学の研究者から、自国の行政や学校教育の関係者に向けて、学校給食の導入の必要性を訴える分かりやすい動画を作りたいと、アメリカで和食の教育を行っている NPO 団体（Table For Two USA）に相談があった。2021 年 4 月、Table for Two USA 代表の上島氏から、以前より協働実績のあった本学学術研究院大森桂教授に、日本の食育研究者として参画の依頼があり、協力を快諾。委託事業として、Table For Two USA と山形大学間で、2021 年 9 月に協定を締結。

【研究手法・研究成果】

動画のコンテンツは、大森教授が地元のカメラマンや映像編集業者（田宮印刷）と企画。山形大学附属小学校、中山町学校給食センターの協力を得て、実際に給食を調理している場面や教室での配膳・食事の様子、所長や校長並びに児童等へのインタビューを撮影。さらに、山形大学で大森教授の解説を撮影。日本における学校給食の最新データを取り入れ、動画に挿入する英語版図表も作成。2022 年 2 月に完成し、YouTube で一般公開を開始。今年度春からの山形大学の授業でも教材として使用し、受講生にも高評価を得ている。

【今後の展望】

日本の伝統ある学校給食の魅力を海外に向けて発信する媒体として有効であるだけでなく、国内、特に若い世代の人々に向けて、日本の食育の優れた点を再発見してもらう教材としての有効性も期待される。無料で配信しているので、多くの人に活用頂きたい。第二弾（地産地消編）、第三弾（持続可能編）の企画・制作も進行中。

お問い合わせ

学術研究院教授 大森桂（食教育）／地域教育文化部主担当
TEL 023-628-4353 メール omorik@e.yamagata-u.ac.jp

令和4年（2022年）5月12日

地域の記憶「共創」アーカイブをはじめます ～第一弾は「三浦新七関連絵葉書アーカイブ」～

【本件のポイント】

- 山形大学附属博物館は地域の記憶「共創」アーカイブ構築をスタートさせます。
- 第一弾として学生や教員とともに作成した「三浦新七関連絵葉書アーカイブ」を公開します。

<https://cherry.yum-archives.net/miura/>

- 5月16日から附属博物館において絵葉書の実物展示を行います。

【概要】

みうらしんいち
三浦新七（1877～1947）は山形県山形市出身。両羽銀行（現在の山形銀行）の頭取や東京商科大学（現在の一橋大学）の学長を務めた人物です。当館には、三浦新七が収集した古文書が「三浦文庫文書」として寄託されており、研究や展示に広く利用されてきました。

2021年（令和3）12月には三浦新七がドイツ留学時代に交わした絵葉書2119点が新たに寄託されました。三浦新七はライプチヒ大学・ベルリン大学・ミュンヘン大学の3大学で1903年から9年あまり学び、その後の日本を支える人びとと交流しました。これらの貴重な資料を広く活用していただくためにデジタルアーカイブを構築し、公開します。また、附属博物館において実物の展示も行います。

本事業は山形大学附属博物館が構築をすすめる「地域の記憶「共創」アーカイブ」の一つです。今後も山形の歴史文化を伝える貴重な資料を、皆さんが活用できるアーカイブ構築をすすめていきます。

三浦新七関連絵葉書



【アーカイブ構築はやまだい未来へつなぐプロジェクトで】

「地域の記憶「共創」アーカイブ」は山形市中心市街地の江戸時代から現代までの変化を、資料と写真、オーラルヒストリー（人々の証言）、博物館が収集してきた資料などをデジタル化してインターネット上で共有することで、山大学生が地域に愛着を持つきっかけとなることや、まちづくりに取り組む方々に役立てることを目的としています。本年度は附属博物館の収蔵資料のアーカイブ化を進めるとともに、授業を通して学生が街の記憶の収集を行います。その成果は報告会などで還元するとともに、年度内にアーカイブ化して公開することを目指します。

本アーカイブは山形大学附属博物館が主体となり推進していきますが、さまざまな方々の協力なしには実現しえないものです。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【絵葉書の実物展示】

三浦新七関連絵葉書寄託記念 ドイツ留学と日露戦争

会期：2022年5月16日（月）～7月29日（金）（詳細は別添チラシをご覧ください。）

5月16日（月）、5月17日（火）は14時から開館

お問い合わせ

小白川キャンパス事務部総務課 山形大学附属博物館（佐藤琴）

TEL 023-628-4930 メール yu-hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ドイツ留学と日露戦争

みうら しんいち

三浦新七(1877~1947)は山形県山形市出身。両羽銀行(現在の山形銀行)の頭取や東京商科大学(現在の一橋大学)の学長を務めた人物です。当館には、三浦新七が収集した古文書が「三浦文庫文書」として寄託されており、これまで研究や展示に広く利用されてきました。

2021年(令和3)12月には三浦新七がドイツ留学時代に交わした絵葉書2119点が新たに寄託されました。三浦新七は1903年から9年あまりの期間、ライプチヒ大学・ベルリン大学・ミュンヘン大学の3大学で学び、その後の日本を支える人びとと交流しました。この期間は日露戦争(1904年2月~1905年10月)と重なっています。

本展は、三浦新七のドイツ留学や戦時下の社会情勢について絵葉書をとおしてまいります。今からおよそ120年前に若き三浦新七がドイツで見た風景や日露戦争をめぐる社会情勢の変化に思いを馳せる機会となれば幸いです。



向かって左から一人目が三浦新七、その隣に結城豊太郎

2022年

5月16日(月)~7月29日(金) 入場無料

休館日: 土日祝

開館時間: 9:30 ~ 17:00

会場: 山形大学附属博物館(小白川キャンパス人文社会科学部1号館1階)

ベニちゃんバス東くるりん「山大前」下車徒歩3分(詳細は「ベニちゃんバス 東くるりん」で検索してください)
駐車場には限りがあります。公共交通機関をご利用ください。

見学の際は事前予約をお願いします

予約は電話または博物館ホームページ上のフォームから受け付けます。
フォームには右のQRコードからアクセスできます。
同時入館者数は12人までです。ご入館の際にはマスク着用・検温
手指消毒・入館者カードの記入にご協力をお願いします。



お問い合わせ

山形大学附属博物館

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

TEL 023-628-4930

(受付時間: 平日9:00 ~ 17:00)

Mail yu-hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

地域の記憶

共創アーカイブ

まちと人の未来のために



ご寄付について



山形市中心市街地の江戸時代から現代

山形市の中心市街地は現在刻々と変化を遂げています。この事業は、今記録しなければ失われてしまう資料と風景、オーラルヒストリー（人びとの証言）、博物館が収集してきた資料などをデジタル化してインターネット上で共有する仕組みの構築です。事業が実現すれば、左の文翔館（旧山形県庁）のように、過去から現在までの地域の変化を未来に残すことができます。

地域と大学との共創

デジタルアーカイブの構築にはさまざまな人たちとの協働が不可欠です。地域に残る資料から、街並みから、語られる話から、山形大学の研究者が地域にとって大切な記憶を引き出し、その価値をわかりやすく伝えます。地域とともに歩み、その発展のために尽くしてきた山形大学だからこそ今、取り組めることです。

未来のために

デジタルアーカイブをまちの人びとと共に創っていくことは山大学生たちが身の回りの地域を見つめなおし、愛着を持つきっかけになります。まちの記憶をいつでも振り返れることはまちづくりに取り組む方々に役立ちます。それだけでなく、小中学校の授業での教材化や、公開講座など、さまざまな世代にその成果を還元します。デジタルアーカイブは、未来の地域に生きる人々に対する、今の私たちからの贈り物です。

最上時代山形城下絵図 山形大学附属博物館蔵

山形大学基金事務室

エンrollment・マネジメント部 山形大学基金担当：樋口・江口
TEL：023-628-4497 MAIL：yu-kikin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

お問い合わせ先

山形大学基金への寄付金は、所得税法上の寄付金控除の対象となる特定寄付金（所得税法第78条第2項第2号）又は法人税法上の全額損金算入を認められる指定寄付金（法人税法第37条第3項第2号）として財務大臣から指定されております（昭和40年大蔵省告示第154号）。